



右隻



左隻



18 唐子遊図屏風 狩野探幽 六曲一双

江戸時代(十七世紀)  
紙本金地着色 本紙各一六六・五×三五八・〇

総金地の画面に、新春、あるいは春に囚んだ遊びに興じる唐子を大きく描く。左隻には獅子舞を中心に新春の芸能、右隻には鶏合と花合、そして蝶を追い戯れるという愛らしい唐子たちである。唐子は、中国唐代に子供達を描いた図様が盛んに描かれ、これが日本にも伝わったことで、この名がある。唐子は様々な遊びに興じる愛らしい姿に描かれることが多いが、これは、遊びは子供の成長にとって重要な意味があり、遊びの中で様々なことを学ぶ、また、子供が楽しく遊ぶことは平和をも象徴する、という意が含まれている。日光東照宮の陽明門上層部の高欄に残される「唐子の知恵遊び」と呼ばれる唐子の彫刻も、そうした意を含んでいると言われる。さらに、多くの男の唐子を描く図様は、多子多産、子孫繁栄に繋がると言われることもあり、吉祥の意匠として盛んに取り上げられることになった。

右隻第一扇、及び左隻第六扇の上部端に「筆峯大居士「守信印」が捺されていることや、その卓抜した構図や描法からも、本作品が江戸時代前期を代表する御用絵師、狩野探幽(一六〇二〜一七四四)であることを疑う余地はない。「筆峯大居士」の印は、寛文四年(一六六四)六月に後水尾院の寿像制作に携わった折に拝領したものであると伝えられることから、本屏風は、それ以後、探幽の没する延宝二年十月までの十年間に制作されたものと考えられる。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

福やぶござれ ― 寿ぎの美・新春に集う

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 42

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成十九年一月六日発行

©2007, The Museum of the Imperial Collections